

2017

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.40

スマホ育児

—6歳児の7割以上がスマートフォンを利用

学識経験者・学校関係者・保護者などで構成される「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」が2017年2月6日に「スマホ育児」に関する調査結果を公表した。「スマホ育児」=スマートフォンを活用した育児方法を指すのだが、まさに現代だからこそ生まれた概念といえる。

調査は2016年10月にネットで実施。第一子に0～6歳の未就学児を持つ父母が対象で、1,149件から回答を得ている。日本における調査は、一般的に回答数（サンプル数）が1,000件を超えたとその結果は統計学的に全国的な傾向として有意であるとされている。したがってこの調査結果はまさに現在の育児方法の実態を現したモノだといえる。

回答結果をみると、スマホ、タブレットなどの情報通信機器を子どもが使った経験は2～6歳児においては5～7割で半数を超えている。0歳と1歳でさえもそれぞれ約2割、約4割に経験があった。しかも利用頻度は「毎日必ず」「ほぼ毎日」で5割を占めた。その利用内容は、写真や動画の閲覧やゲームが多い。

今やスマホを育児に利用しているのが当たり前になっているのだ。なぜ使うのか？その理由（複数回答）として「機嫌が良くなる」が54%と最も多く、「保護者の手を離れる時間ができる」（40%）、「機器に触れたがる」（28%）と続いた。

確かに外出した際に、電車の中であるとか、飲食店など公共の場で子どもがむずかかったり、泣いたりすると周りから厳しい目を向けられることも多く、それに対応するためにスマホで子どもをあやす事も多いのだろう。

しかし、成人においてもスマホ老眼という言葉があるように、けっして目には良い影響を与えない。これに関しては、59%が「目が悪

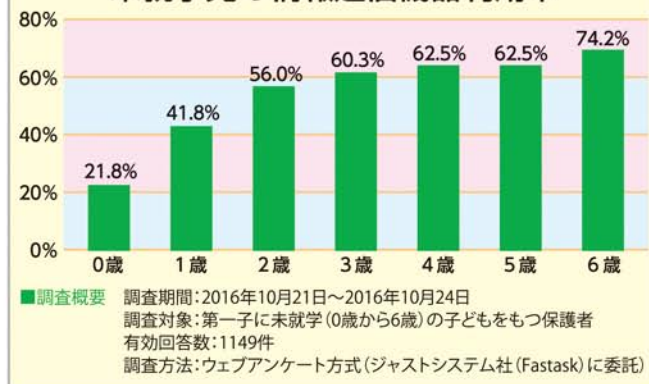
くなることや、視力発達への悪影響」を挙げている。さらに「不適切な情報や画像に触れる」（30%）、「将来、長時間利用傾向や依存になってしまう」（29%）も上位にきた。便利なツールとしてつい利用はするが、9割以上が何らかの不安を抱えているのだ。

とはいえ、前述したように公共の場での周りの目や手間を考えるとついスマホに依存してしまっているのかもしれない。

スマホが登場する前には携帯ゲーム機が同じような存在であった。今、育児をしている親の世代がそれにあたる。さらに、そのまた親の世代でいえば、テレビが登場し生まれながらに映像情報に接してきている訳である。しかし、テレビやゲーム機との大きな違いは、インターネットへ接続出来、ありとあらゆる情報にアクセス出来ることである。生まれながらに情報機器を操るのが当たり前世代だといえる。

当然ながらリテラシーが異なる子ども達が生まれていることとなる。本当の影響は、これから発生する事になる。情緒や感情などは、どう変化していくのであろうか？

未就学児の情報通信機器利用率



■参照資料

- ・「スマホ育児」の実態と課題を把握するため、未就学児の生活習慣とインターネット利用に関する保護者意識調査を実施 | 子どもネット研
<http://www.child-safenet.jp/activity/2657/>
- ・スマホに子守をさせる「スマホ育児」が物議、専門家が実態調査 - Engadget 日本版
<http://japanese.engadget.com/2017/02/10/smartphone/>

美楽からの一言

日本中を震撼させた当時14歳の中学2年生が起こした『酒鬼薔薇事件』こと神戸連続児童殺傷事件は1997年（平成9年）に発生した。

この時もゲーム感覚など情報機器の影響が騒がれた。それから20年。まさに酒鬼薔薇世代が親になり、生まれながらにスマホに接している世代が誕生している。果たしてどんな大人になっていくのであろうか？

